

ふれあい情報

2022年1月17日(月) 第338号

■発行 日本退職者連合

■発行人 野田那智子

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL>03-5295-0507

<FAX> 03-5295-0541

<e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

第3回幹事会を開催しました

1月12日(水)



あいさつする人見会長

1月12日、退職者連合は第3回幹事会を行いました。人見会長のあいさつに続き、今回から新しく幹事になられた皆さんからひと言ずつご挨拶をいただきました。

その後、各委員会からの報告に移り、30周年記念事業として取り組んでいる「次世代継承委員会」からは、「中間報告 次の世代に継承すべき社会とは」につ

人見会長あいさつ

オミクロン株の感染が拡大しています。沖縄ではエッセンシャルワーカーが感染して公共サービスに影響が出ています。3密を避け、感染しない、させない取り組みを継続する必要があります。

COP26で日本は化石賞を受賞してしまいました。地球温暖化は他人事ではなく、私たちも関心を深めていく必要があります。5月ごろに環境問題の学習会をやりたいと考えています。

今年の初め、第二次大戦の戦勝国5大国が「核戦争に勝者はない」というメッセージを出しました。一方で、世界全体に相互不信が広がっており、核兵器の拡散も継続しています。核兵器禁止条約を日本も早く批准するよう、迫っていきたいと思います。



昨年、総選挙は非常に残念な結

果でした。この流れを変えるためにも、夏の参院選は大きな戦いです。皆さんの組織内候補、連合推薦候補の必勝に向けて取り組みの強化をお願いしたいと思います。

今日の幹事会では私たちの春要求を決定し、その内容で政府に要請していきます。生活の要としての年金制度を守っていきけるよう、取り組みを強化します。

政府は「全世代型社会保障構築会議」を設置し、また「新しい資本主義実現会議」も発足しましたが、まだ具体策は見えていません。連合の新年交歓会では岸田首相も賃上げが必要だとおっしゃっていました。連合の掲げる4%賃上げに向けて連合がこの春闘でがんばるよう、また参院選でもがんばるよう、連帯して現退一致で取り組んでいきたいと思えます。

退職者連合は昨年結成30周年を迎えました。今日をスタートに、またあらたな30年に向けてがんばっていきたいと思っています。

新しく幹事に就任された皆さん



玉之内明徳さん
鉄道退職者の会



小澤成一さん
北陸ブロック



峯後樹雄さん
北海道ブロック

中間決算・監査についての報告、承認の後、今次通常国会に向けた退連としての政策制度要求について提案、議論が行われ、若干の補強を受けて原案が承認されました。

連合 2022年

新年交歓会開催

1月5日、連合は新年交歓会を開催しました。連合の構成組織代表、来賓等約300名が参加。退職者連合からは人見会長が参加しました。

芳野連合会長は主催者代表挨拶で今年の課題として、①安心社会の実現、②参議院選挙で推薦候補の必勝をめぐす、③連合運動・組織の強化等、を訴えました。9年ぶりに政府を代表して出席した岸田首相は、①コロナ対策の強化、②新しい資本主義の実現に賃金引上げが必要だと発言しました。コロナ対策上、交歓会は約30分で終了しました。



あいさつする芳野会長

連合総合政策局と

政策調整会議を実施(12月23日)

12月23日、退連は連合総合政策局と22年通常国会に向けた政策協議を行いました。退連からは、北村政策委員会委員長、川端同事務局長ほか事務局長、連合からは佐保総合政策推進局長、富田総合政策推進局長ほか局長4人が出席しました。

冒頭、早川事務局長が退連の重点要求について説明を行い、その後各項目について質疑を行いました。退連からは、「生活保護の理念の徹底」が「女性の社会的尊厳の確立」の項にあるのは何故か、という質問があり、この間の女性に対

する暴力とその背景を踏まえた内容である旨、野田事務局長が回答。デジタル庁問題やカーボンニュートラル、年金についても意見交換を行い、連合からはマクロ経済スライドについて、次期の財政検証で厳しい結果が予想されるため、生活保護水準とセットで支給の切り下げが表面化する可能性が指摘されました。

ミャンマークーデター政権に抗議する東京デモに参加



連合山根木副事務局長

12月26日、数年に一度という寒波の新宿中央公園に、在日ミャンマー人ら約400人が集まりました。昨年2月1日のミャンマー国軍のクーデターに抗議し、祖国に民主主義の回復を求める東京デモに参加する人々です。

ミャンマーは多民族国家で、祖国を離れた

日本においても、各グループが分散交流しているのが実態ですが、国軍による民衆への弾圧に対しては、すべてのグループが心を一にして抗議行動を続けています。

午後1時半、明るい日差しを浴びながらデモ出発前の集会が始まりました。この日は日本の市民団体や、労働組合からは連合の山根木副事務局長(退職者連合副会長)、JAMの安河内会長(JAMゼネラルユニオン委員長)らも参加しました。挨拶に立った山根木副事務局長は「クーデターによる暴力的な政権奪取や民衆への弾圧は許されない。在日ミャンマー人の皆さんの運動を支援して共に闘う」と決意表明しました。

また安河内会長は「JAMはFWUBC(在日ビルマ市民労働組合)の結成に協力し、ミャンマーで労働組合活動家養成も行ってきた。ミャンマーに民主主義が回復するまで皆さんと共に闘ってゆくと力強く訴えました。



JAM 安河内会長(一番左)

その後、西武新宿駅付近までの約5キロをデモ行進し、独裁反対の意思表示である三本指のピースサインを送りながら、沿道の市民にプラカードや街宣で支援を呼びかけました。

解散後は、下落合の公民館で開かれたFWUBCの総括懇親会(忘年会)に参加。ミャンマー現地で一時国軍に拘束されたジャーナリストの北角裕樹さんやFWUBC結成当初から医療面で世話になった港町診療所の山村淳平先生も参加しました。閉会間際に駆け付けた立憲民主党の石橋通宏参議院議員(ミャンマーの民主化を支援する議員連盟事務局長)は日本政府のミャンマー軍事政権に対する微温的対応を厳しく批判し、民主化を求めるミャンマーの人々に熱い連帯の挨拶を行いました。

(早川行雄 退職者連合副事務局長)

当面の日程変更について

★2月9日(水) 全国事務局長会議

⇒ 5月19日(木)に延期します。

★2月10日(木) 院内集会

10:00 参院議員会館1階講堂

⇒ 地方からの参加は中止し、人数を絞って産別代表の参加で実施します。後日、動画を配信します。